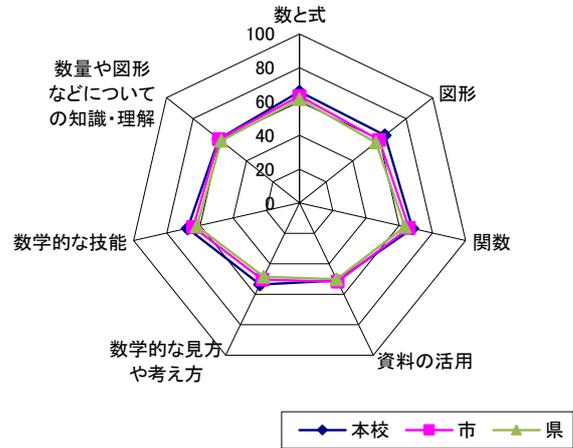


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	65.9	63.3	61.5
	図形	64.2	59.8	57.4
	関数	68.0	65.9	63.4
	資料の活用	51.0	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え	53.6	50.4	48.5
	数学的な技能	67.5	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	60.7	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「数量の関係を表す図から方程式をつくり、答えを求める」では県を14.1ポイント上回っている。 ●「自然数を選ぶ」では21.8%、「図や式から考えを読み取る」では9.6%と、県、市でも30%満たない水準である。	・数と式では、正負の数の計算や1次式の項をまとめる。1次方程式を解くなど基礎的な計算技能を得意とする生徒が多い。しかし、左に挙げたように知識・理解、見方や考え方については県全体でも課題となるため、反復学習や自分の考えをプレゼンする機会を取り入れたい。
図形	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っているが、特に「三角柱と三角錐の体積の関係を正しく述べた文を選ぶ」では県を10.5ポイント上回っている。 ●「円柱の側面の横の長さを求める」、「おうぎ形の面積を求める」では、県、市を上回っているが、正答率60%を割っている。	・柱や錐を見取り図で認識することはでき、体積を求めることはできているが、立体を展開図で認識が不得意な様子なので、具体物を見る、触れるなどの実体験をさせる。
関数	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に活用問題「6000m地点に達するまでの時間の差を求める」では81.4%と高い平均正答率となっている。 ●「対称の軸について空欄にあてはまる言葉を答える」では、県を11.8ポイント上回っているが、正答率60%を割っている。	・関数の領域では、どの設問においても県、市を大きく上回っている。これから式、表、グラフを関連付けて考え、問題解決ができるための指導を続けていきたい。課題としては、対称についての学び直しの機会を設ける。
資料の活用	○分野全体として県は上回っているが、市を下回る結果となってしまった。「ヒストグラムから中央値が含まれる階級を答える」では7.2ポイント市を上回っている。 ●「度数分布表から、指定された順番の生徒の階級を求める」では市の平均正答率よりも5.7ポイント、「ヒストグラムから記録のよい選手を選び理由を説明する」では市の平均正答率よりも5.9ポイント下回っている。	・資料の活用における、用語(階級値、相対度数など)の定義や算出方法が定着していないためこのような結果であったと思われる。反復学習とともに、実生活の中での有用性を示しながら定着を図りたい。